

## 令和3年度 さいたま市立海老沼小学校 学校関係者評価書

さいたま市立海老沼小学校

学校関係者評価委員長 佐々木 卓 印

### 1 学校関係者評価の実施体制

- (1) 構成人数 15人
- (2) 実施回数 3回（紙面で行った2回分を含む）

### 2 学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

- 教育活動に制限がある中ではあるが、学校評価アンケートの結果から、保護者、児童ともおおむね好意的に評価していると捉えられる。ただ、児童の中には、活動の制限によって「我慢している子」も見られるので、児童の学校での様子を注意深く見ていく必要がある。楽しく学校に通えているのは、教職員と保護者との連携の成果であるといえる。地域も引き続き協力していきたい。
- コロナの影響が長期化することによって、児童が抱える困難さもより複雑化しているように感じる。担任が学級で「困ったことがあったら、先生に話す」指導を継続するのはもちろんだが、担任だけでなく友達同士でも話しやすい雰囲気や環境づくりを継続してほしい。また、先生が家庭に児童の様子をこまめに確認するなど、保護者との情報共有を密に行ってほしい。
- 教科担任制の導入については、賛否両論ある。メリットもデメリットも存在する。メリットを最大限引き出し、かつデメリットは最小限にできるよう、来年度以降に生かしてほしい。なにより、子ども達が不満をもったり、不安を抱えたりしないように考慮してもらいたい。
- 今年度も、子ども達の学校の様子を保護者が見る機会がほとんどなかった。このような状況が長く続くことで、保護者の「学校・児童への関心の低下」を招くことがないか、非常に心配である。
- 学校では、タブレットなどの ICT 機器も活用に取り組んでいる。オンライン授業も少しずつではあるが、軌道に乗ってきたとの話を聞いている。児童の状況によっては、オンライン授業をすぐに提供できるように準備をしてほしい。

### 学校関係者評価を受けた学校の対応

- 今年度も全校で行う体育的行事の実施に制限があった。特に3学期は海老沼タイムを実施すること自体が難しかったが、感染症対策をきちんと行いながら、体育授業の充実を図った。ただ、オンラインで授業を受けている児童に向けては、「家でできること」に取り組むよう指示を出すことが多かったため、今後はある程度取組メニューを明確化する等、整備をする必要がある。来年度以降も実施に際して、例年通りとはいかない点が出てくるのが考えられるので、今年度の体育的行事で出てきた成果と課題をしっかりと見直し、来年度以降の計画に反映させていきたい。
- 教科担任制の導入に伴い、3人の担任で学年全体を見守ることができた。また、今年度はSSW（スクール・ソーシャル・ワーカー）が拠点校として配置され、こまめに児童の様子を見ていた。SSWから子ども達に声をかける中で、安心感や満足感をもった児童もいた。引き続き、地道な取組を通じて、教職員と子ども達だけでなく子ども達同士の信頼関係を築いていく。また、日々の授業の充実も心がける。導入されたタブレット等も最大限活用して、子ども達にとって「わかりやすい授業」を日頃から行うよう、教材研究に努める。特に算数科の研究を引き続き進めていく。
- オンライン授業の実施に際しては、試行錯誤することもあったが、円滑に授業を行うことが徐々にできるようになったと考える。当初は保護者の皆様から様々なご意見をいただいたが、最近は学校の取組を暖かく見守ってくださっていると感じる。引き続き、円滑にオンライン授業やタブレットを活用した対面授業ができるよう、努力を続けていく。また、児童に ICT 機器を活用していく上でのモラル、ルールを継続的に指導していく。

さいたま市立海老沼小学校長 宮本 江津子 印